

# きのくに共育コミュニティ 地域とつながる 元気な学校



## つながる ひろがる 共育の輪

子どもたちが地域の人と出会い、新しい学びに驚いている顔。  
子どもたちが地域の人から認められ、誇らしげにしている顔。

そして 子どもたちはもちろん、  
保護者も地域の人も  
たくさんの笑顔があふれる学校。

先生方が保護者や地域の方と出会い、つながりをつくり、  
子どもたちの豊かな育ちのために、  
「共育」の輪をひろげていきましょう。

---

## はじめに

---

私たちは、いつも地域の中で、地域に包まれて生活しています。家庭も学校も、地域の中にあります。それなのに、いつしか地域があまり意識されなくなり、遠いものになっていないでしょうか。それは、学校にとっても、家庭にとっても、地域にとっても不幸なことですし、何よりも子どもたちにとって不幸なことのように思われます。

現代は、「知識基盤社会」と言われ、学ばなければならない新しい知識・情報・技術が飛躍的に増大していますが、同時に、複雑化する社会をたくましく、豊かに生きていく力を育てることがますます重要になっています。

それには、家庭と学校と地域のそれぞれに、子どもたちの育ちと学びを支える環境、人間的なつながりや豊かな体験が用意され、調和を保っていることが必要です。その中で、子どもたちは、周りの環境と対話し、人間関係を結び、課題を解決していく力を身に付け、やがて地域社会の一員として主体的に参画し、地域を支える人材へと成長します。「町づくりは人づくり」と言われるように、人づくり・学校づくりと地域づくりは一体のものなのです。

本県では、学校・家庭・地域が子どもを中心に据えて、課題や願いを共有し、協働して解決に取り組む「共育コミュニティ」づくりを、市町村の協力を得ながら県内全域で進めています。この「共育コミュニティ」は、大人にとっても子どもにとっても、豊かな出会いの場であり、学びの場となります。子どもたちは多くのよき市民と出会い、自分たちが地域の大人に支えられていることを実感し、市民としての社会的な実践力をより確かなものとしていきます。また、大人たちは、学校との関わりを通じて新たなネットワークをつくり、そのつながりが地域の活性化へとつながっていきます。

学校は、そうしたつながりの拠点となることによって、信頼関係を構築し、地域が持つ豊かな資源を教育に生かすことができます。平成20年度に各市町村で開かれた「共育フォーラム」では、「地域は学校のために何ができるか」「学校は地域のために何ができるか」という視点から、活発な話し合いが展開されました。それは、子どもたちの確かな育ちと学びを支える学校づくり・地域づくりに向けて、対話と協働の出発点となり、今、各地域でそれぞれの特色を生かした「共育コミュニティ」づくりが広がり始めています。

このガイドブックは、教職員が「共育コミュニティ」の理念や取組内容を理解し、地域との結びつきを大切にしたい開かれた学校づくりを積極的に進めていただくために作成しました。元気な学校、元気な和歌山を教育の力で築いていくために、学校・家庭・地域が一体となった取組が県内各地で推進されることを心から願っています。

和歌山県教育委員会  
教育長 山口 裕市

# 第1章 共育コミュニティと開かれた学校づくり

## 1 「共育コミュニティ」とは…

### \* 今、子どもたちは…

子どもたちの笑顔は地域の宝です。子どもたちの豊かな育ちは元気な和歌山県の豊かな未来であり、希望です。

しかし、今、少子高齢化や核家族化、情報の氾濫等による価値観の多様化など子どもたちを取り巻く社会環境が大きく変化してきています。こうした状況の中、子どもたちの基本的な生活習慣の乱れ、規範意識や、コミュニケーション能力の低下など、さまざまな課題が指摘されています。

### \* 家庭・地域の抱える課題

子どもたちの抱える課題の背景の一つとして、子どもたちの生活を支える家庭や地域におけるライフスタイルの変化が人々の意識を変え、人と人とのつながりを希薄にしていることが挙げられます。

かつて、地域には人と人とが顔をあわせてコミュニケーションをとる場が多くあり、さまざまな世代がともに地域活動に参加することをとおして、互いに支え合い、社会で生きる実践的な力を習得してきました。しかし、このような地縁的なつながりの希薄化は、地域から孤立して子育てをする家庭の増加や、地域住民の地域活動に参加する機会の減少など、地域や家庭の教育力の低下へとつながっています。

### \* 学校の抱える課題

家庭や地域から多くの役割を期待されている学校は、学力・体力の向上はもとより、規範意識の低下や不登校、いじめ等多くの教育課題の対応に追われ、子どもや保護者と向き合う時間がなかなかとれないなど、学校現場の負担軽減が課題となっています。

また、「学校は学校」「地域は地域」という分業的な考えが相互の理解不足を引き起こし、少し言葉を交わせば分かり合えることでも、お互いが身構え、ともすれば批判し合う関係に陥ってしまうことにもなりかねないといった状況もあります。

### \* 「共育コミュニティ」の考え方

和歌山県教育委員会では、このような子どもや教育を取り巻く状況に対応するため、国の学校支援地域本部事業を活用しながら、中学校区等を一つのまとまりとして、学校・家庭・地域が力を結集し、子どもたちを豊かに育み、人と人とのつながりを再構築することをめざした「地域共育コミュニティ」づくりを全県的に進めています。

この取組では、学校を拠点として、「子どものために」「子どもを中心に」を合言葉に、学校・家庭・地域がそれぞれの思いや願いを寄せ合い、話し合う機会や場を大切にしながら、これまで取り組んできた活動を見直したり、新たにお互いが協働した活動を生み出そうとしています。学校に設けられている地域連携担当教員と、地域住民等から選ばれた地域共育コーディネーターがキーパーソンとなって、学校と地域を結びつけながら、持続的、自立的につながっていける仕組みづくりを進めていきます。

このような取組をじっくりと重ね合わせていくことで、人と人との温かなつながりが育まれるとともに、学校と地域とが固いきずなで結ばれた「地域共育コミュニティ」という教育基盤が育まれていきます。この基盤をもとに、子どもも大人も市民性を高め、地域社会の一員として、共に育ち、育て合うことができるような、安心と信頼の地域ネットワークづくりをめざしています。

## ＜期待される効果＞

### ○子どもにとって

- ・地域の大人に支えられていることを実感し、市民としての自覚や郷土愛が育ちます。
- ・地域の人々と活動や交流を繰り返すことで、子どもたちの社会性やコミュニケーション能力が育ちます。
- ・さまざまな体験や経験をとおして、学びへの意欲が高まります。

### ○学校にとって

- ・地域の支援を受け、子どものニーズや地域資源と結びついた豊かな教育活動が展開できます。
- ・子どもの育ちや教育に関わる課題に対して、地域の人々と共に考え課題解決に取り組んでいくことができます。

### ○地域にとって

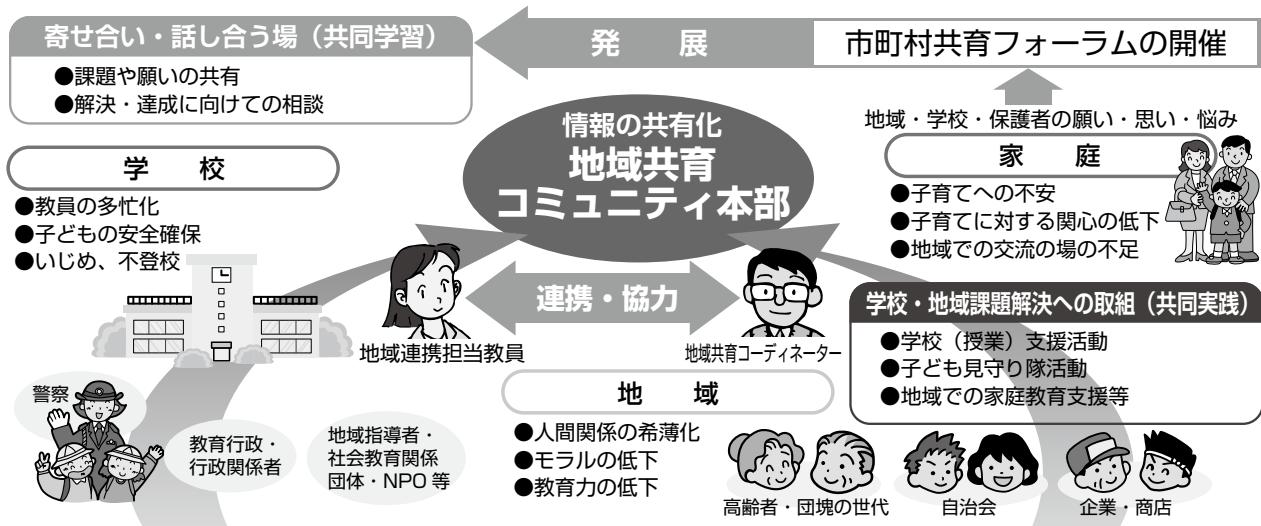
- ・生涯学習の成果を生かす場が広がるとともに、学校や子どもたちからも多くのことを学び、生きがいつくりにつながります。
- ・人と人とのつながりが深まり、地域住民相互の安心や信頼が培われていきます。

### ○家庭にとって

- ・学校の教育活動に関わる機会が増え、学校への理解が深まり子どもの学習や活動への関心が高まります。
- ・地域の人とのつながりの中で、安心して子育てができます。

## ●地域社会全体で取り組む「共育」の仕組み●

子どもも大人も共に育ち、育て合う きのくに共育コミュニティ の形成



Q. 国の実施している学校支援地域本部事業と本県の共育コミュニティは違う取組なのですか？

A. 学校支援地域本部事業は、学校が必要とする活動について地域の方々をボランティアとして派遣する学校応援団づくりをめざしていますが、共育コミュニティは、学校支援にとどまることなく、学校・家庭・地域が一体となって子どもも大人も共に育ち、育て合う（共育）ことができる地域社会づくりをめざしており、学校支援地域本部事業をより発展させた取組といえます。



## 2 開かれた学校づくりのために

学校は今、地域に開かれた信頼される学校であることが求められています。すでに多くの学校では、地域に向けた情報の発信や、学校施設の開放、ゲストティーチャーや学校支援ボランティアの導入への取組など、開かれた学校づくりを進めています。しかし、このような活動の中には、教職員個人の取組であったり、学校と地域の双方が成果を実感できないなど、地域との組織的、継続的な結びつきが十分でない場合もあります。地域に開かれた学校となるためにも、学校と地域がそれぞれの思いや願いを共に話し合い、子どもたちの課題を解決するために力を合わせて取り組む信頼のもとでのつながりが大切になります。共育コミュニティの形成に向けた取組を進める中で、計画的・継続的に地域資源を活用した授業や体験活動を実施したり、地域行事への子どもたちの参画を実現したりしていくことにより、開かれた学校づくりが加速するものと期待できます。

### <開かれた学校づくりのために…ここから始めましょう>

#### 学校内で

- ☐ 校務分掌に地域連携担当教員の役割を位置付ける。
- ☐ 共育コミュニティに関する研修の機会をつくるなど教職員の共通理解を図る。
- ☐ 地域資源（ヒト・モノ・コト）を把握し、その活用を進める。
- ☐ 地域と連携した学習活動を計画し、教育計画に位置づける。

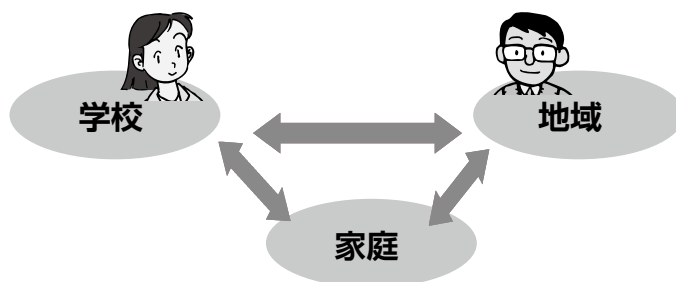
#### 学校外に向けて

- ☐ 公民館、博物館、図書館等の社会教育施設（専門職員）との連携を進める。
- ☐ 学校評価活動を充実させるとともに、家庭や地域へ学校の情報を積極的に発信する。
- ☐ 体育館、余裕教室などを地域の社会教育活動に提供していく。
- ☐ 学校の願いや課題についてPTAを含め地域と共に話し合う場をつくる。

## 3 学校と地域をつなぐキーパーソン（共育コミュニティの取組を例にして）

#### 地域連携担当教員

学校内のニーズの収集や、地域とのつながりの調整、地域共育コーディネーターとの連携を行います。



#### 地域共育コーディネーター

地域の方々と学校の間に立って、両者を結びつけるとともに、活動を作り上げていくための調整をします。

#### 地域連携担当教員

- 校内での連絡調整
  - ・必要な支援の調査・情報収集
  - ・地域からの情報の職員への伝達
- 地域共育コーディネーターとの連携
  - ・学校からの希望の伝達と調整
- 家庭・地域に向けて活動成果の情報発信

#### 活動例

学校と地域が共に思いや願いを寄せ合い、課題解決に向けて話し合う場をつくる

#### 地域共育コーディネーター

- 地域での広報活動
  - ・共育コミュニティの趣旨や活動状況の普及
- 学校（地域連携担当教員）との連携
  - ・教職員が必要としている希望内容を整理
- 学校および地域との連絡調整
  - ・学校支援ボランティア・ゲストティーチャーの手配や学校との打合せ

## 第2章 学校支援ボランティアの活動

### 1 学校支援ボランティアとは

「総合的な学習の時間」の導入などを契機に、各学校ではゲストティーチャーなど、地域の方々の協力を得ながら教育活動の充実に取り組んでいます。このように、地域の方々が学校を支援する「学校支援ボランティア」は、共育コミュニティで行われる具体的な活動の一つです。

「学校支援ボランティア」とは、子どもたちの教育のために役立ちたいという熱い思いをもって、学校のニーズ（要望）に応じて行うボランティア活動のことです。「子どもがすこやかに育って欲しい」「学校のために何かしたい」という思いを持った地域住民が、学校支援ボランティアとして活動します。学校はボランティアと協働することで、さまざまな体験活動ができたり、子どもたち一人一人に対して学習面での細やかな支援が可能となるなど、活気ある教育活動が実現していきます。また、学校での子どもたちの様子を地域の方々に知ってもらうことで、生活面の課題への対応などにも学校・家庭・地域が一体となって取り組むことができ、「地域の子どもは地域ぐるみで育てる」という地域のきずなも深まることが考えられます。

### 2 学校支援ボランティアの活動例



家庭科 ミシン実習



生活科 郷土料理



国語科 書写



図書ボランティア



登下校の見守り

#### 他にも こんな活動があります！

- ・ゲストティーチャー  
(伝統文化、福祉教育等)
- ・放課後等の学習支援
- ・部活動の支援
- ・環境整備活動  
(花づくり・剪定など)
- ・学校行事の運営支援 など

#### 学校支援ボランティアの活動に取り組んで…

もっと子どもたちを知りたい、もっと学校教育を知りたいという思いで、学校のいろいろな活動に積極的に参加させていただきました。子どもたちの目は輝いていて、私も楽しくなります。そして、また発見もあります。子どもたちそれぞれが自分の得意なところを「ねえ、見てよ！」とばかりにアピールしてくれたり、ちょっとしたことに「おー。」と感動してくれたり。

これからも子どもたちのために地域のパワーを与えられたらと思います。そして、子どもたちの成長と共に地域もさらに成長していけるようお手伝いできたらと思います。(学校支援ボランティアとして参加した保護者の感想)

### 3 学校支援ボランティアの活動への理解を

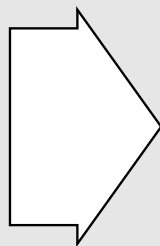
#### <学校支援ボランティアの思いを理解しましょう>

学校支援ボランティアとして活動する地域の方々は、地域や子どもに対してさまざまな願いや思いを持っています。また、自分自身の学びや生きがいについても前向きな思いを持っている方が多くいます。

地域の方々を受け入れる学校は、そういった願いや思いを理解するように心がけましょう。そうすることで学校と地域の思いが結びつき、予想以上の効果を生み出すことが期待できます。

#### ～地域住民の思いは～

- ①学校や子どものために何かをしたい
- ②自分が学んだことを生かしたい
- ③学校や子どものために役に立ちたい
- ④子どもたちに伝えたいことがある
- ⑤より向上したい、さらに学びたい



\*暇つぶしではありません  
\*下請けではありません  
\*万能ではありません  
\*足りない部分の単なる補完ではありません

#### <学校支援ボランティアを迎える準備をしましょう>

学校支援ボランティアを迎える場合、活動予定を職員会議等で事前に連絡するなど、ボランティア活動について教職員が共通理解できるようにします。また、子どもたちにとっても、学校支援ボランティアの方との出会いは地域とのつながりが広がる第一歩となります。地域の方が来校することを事前に説明し、学校生活が地域の人たちに支えられていることを子どもたちが理解できるように、日頃から指導を積み上げていくことが大切です。

#### <学校支援ボランティアを迎えるために心がけること>

##### ①学校の教育目標やねらいについて事前に伝えましょう

学校支援ボランティアを共に活動する「パートナー」として迎えるために、学校の教育目標や学年目標、指導計画など、学校が提供できる必要な情報を事前にボランティアに伝えておきましょう。

##### ②心と心がつながる出会いとなるよう心がけましょう

初めて参加する学校支援ボランティアにとって、学校は気軽に入出入りできる場所ではありません。そんな時、先生たちから笑顔であいさつされたり、「ご苦労様です」と声をかけられると安心できるものです。お互いの心と心がつながる出会いとなるよう温かい声かけを心がけましょう。

##### ③たくさん話をしましょう

学校支援ボランティアとのコミュニケーションの場をつくり、ときには一緒にお茶を飲んだりしながらたくさん話をしましょう。子どもたちとの活動を通して感じたことなどを聞くことができれば次の活動の充実にもつながります。また、会話の中で思いがけない情報を提供してくれることもあります。さらに、学校施設を有効活用して、学校支援ボランティアの方が休憩をとったり、地域の方同士がゆっくり話せる居場所づくりも進めましょう。



## 4 学校支援ボランティアと共に活動するために

効果的に活動するためには、事前の打ち合わせが大切です。打ち合わせ用紙等を活用し、学校の思いやねらいをしっかりと伝えましょう。また、学習終了時に活動記録を残しておく、次年度以降の活動の参考になります。

参考資料

### ＜学校支援ボランティア打ち合わせ用紙＞（例）

\* 打ち合わせ用紙は、必要に応じて項目を作成しましょう。  
\* 「活動」欄は担当教員が事前に記入し、打ち合わせに持参しましょう。

（ ） 学校 記入者（ ）  
＜事前に記入＞

#### ☆活動

活動日	年 月 日 時間 : ~ :
対象学年	年（組） 対象人数（ ）人
活動場所	
ねらい	
活動内容	* 教科等： （单元名： ）
事前準備	
備考	

#### ＜当日記入＞

#### ☆ボランティア

氏名		住所	
連絡方法	・ 電 話 （ ） ・ F A X （ ） ・ 携帯電話 （ ） ・ メ ー ル （ ）		

#### ☆打ち合わせ確認事項

- ☐ 来校交通手段（ ）  
→ 自家用車の場合、駐車位置は…
- ☐ 来校予定時間（ ）
- ☐ 準備物の確認：
- ☐ 印刷物の確認：
- ☐ ボランティア保険等への加入の確認：
- ☐ ボランティアの方の紹介内容：

--

## 5 教職員のための学校支援ボランティアQ & A

### Q1 学校現場が忙しくなるのでは？

**A** 学校の活動に地域の方が参加することで、学校の取組や教員の様子などを直接知ってもらえるよい機会となります。取組を始めたばかりのころは、連絡を取り合うために時間や手間がかかることも予想されますが、お互いの理解が進むと活動もスムーズになっていきます。その結果、地域に『学校の応援団』ができ、教員の教育活動以外の負担が軽減されるなど、子どもと向き合う時間が確保されることも期待できます。教員が、教材研究や生徒指導により力を注ぐことができるようになることで、子どもたちのすこやかな育ちを支援することにつながります。

### Q2 謝金や経費はどうなるの？

**A** 学校支援ボランティアは原則として無償です。お礼としての謝金は必要ありません。子どもたちの笑顔と感謝の気持ちが「お礼」となります。しかし、「タダだから使う」という安易な感覚で、ボランティアを依頼するのは好ましいことではありません。また、経費（教材費や交通費）が必要な活動の場合は、事前の打ち合わせで誰が支払うのかをきちんと確認しておく必要があります。

### Q3 学校でボランティアを迎える時の注意点は？

**A** 初めて学校支援に関わる地域の方は、「自分が役に立つのかな？」「うまくできるかな？」等不安を感じています。事前の打合せの機会を設け、緊張や不安を解消し、心の準備ができるよう心がけましょう。

活動当日までに、ボランティアが来校することを掲示板等で子どもたちに伝えたり、ボランティアの名札を準備したりするなど、子どもたちが地域の方の名前を覚えるような工夫をしましょう。

子どもと関わることが、ボランティアの方にとって一番うれしいことです。環境整備等大人だけの活動で終わる場合でも、子どもたちと共同作業できる場面を設けたり、子どもたちの感想等を届けたりすることが、ボランティアの方の意欲につながり、継続した活動に発展することが期待できます。

### Q4 トラブルが起こった時には？

**A** 学校支援ボランティアの中には、事前にボランティア保険に加入している人もいます。事前の打ち合わせで確認をしておきましょう。

また、活動中に、ボランティアの方の不適切な発言や行動があったときには、その場でフォローし、活動後にきちんと話し合しましょう。

### Q5 守秘義務についてどう伝えればいいのか？

**A** 学校には個人的・公的な秘密があり、先生たちは職務上知り得た秘密をもらしてはいけないという「守秘義務」があります。教育活動として、子どもと関わりをもつ学校支援ボランティアも同じです。学校での活動で知り得た秘密は絶対に守ってもらうよう事前に理解していただく必要があります。

## 第3章 学校と地域の協働を進める ～大人も子どもも地域の一員～

### 1 子どもたちも地域の一員

共育コミュニティでは、学校を拠点に、大人も子どもも地域の一員として、地域活動へ積極的に参加していきます。子どもたちが地域の大人とともに活動することは、自分が生まれ育った地域について改めて考える機会となります。また、親や教職員以外の大人から認められた経験は、自分の存在を肯定的にとらえるきっかけになります。

地域住民にとっても、子どもたちとともに活動できる取組を考えることで、地域の活性化について考える機会になります。また、学校としては、子どもたちが生活している地域について知ること、地域の担い手である子どもたちを新たな視点でとらえることにもつながります。

子どもたちは、地域社会や大人とのつながりを大切にしながら、よりよい地域づくりに積極的に参加できる資質や態度を身に付け、地域の一員としての自覚を高め、次代を担う有意義な人材として成長していきます。



伝統芸能の伝承



地域の清掃活動

### 2 学校の中に地域住民の「居場所」を

共育コミュニティの取組の中で、学校と地域の協働を進めるために、余裕教室等を活用して、学校の中に地域の方の居場所ができています。「学校は敷居が高い」と感じている地域の方は少なくありません。学校に地域の方が集える場があれば、学校に行く機会も増え、学校の取組の理解が進みます。また、その部屋で顔を合わせた地域の方同士が交流したり、情報交換をすることもできます。

また、県内では日頃から地域の方が学校に行くことができるように、学校の施設を地域に開放する取組も広がっています。



地域共育コーディネーターの活動拠点となる「コーディネータールーム」



学校内で地域の方の作品を展示する「ギャラリー」

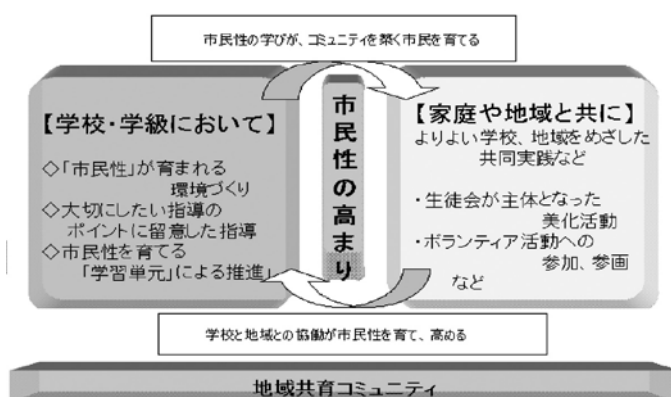
## 第4章 共育コミュニティで育つ「市民性」

県内すべての学校において、子どもたちの発達段階に即した「市民」として必要な「社会に適応する力」「共に社会をつくる力」を身に付けることをめざした「市民性を育てる教育」が進められています。

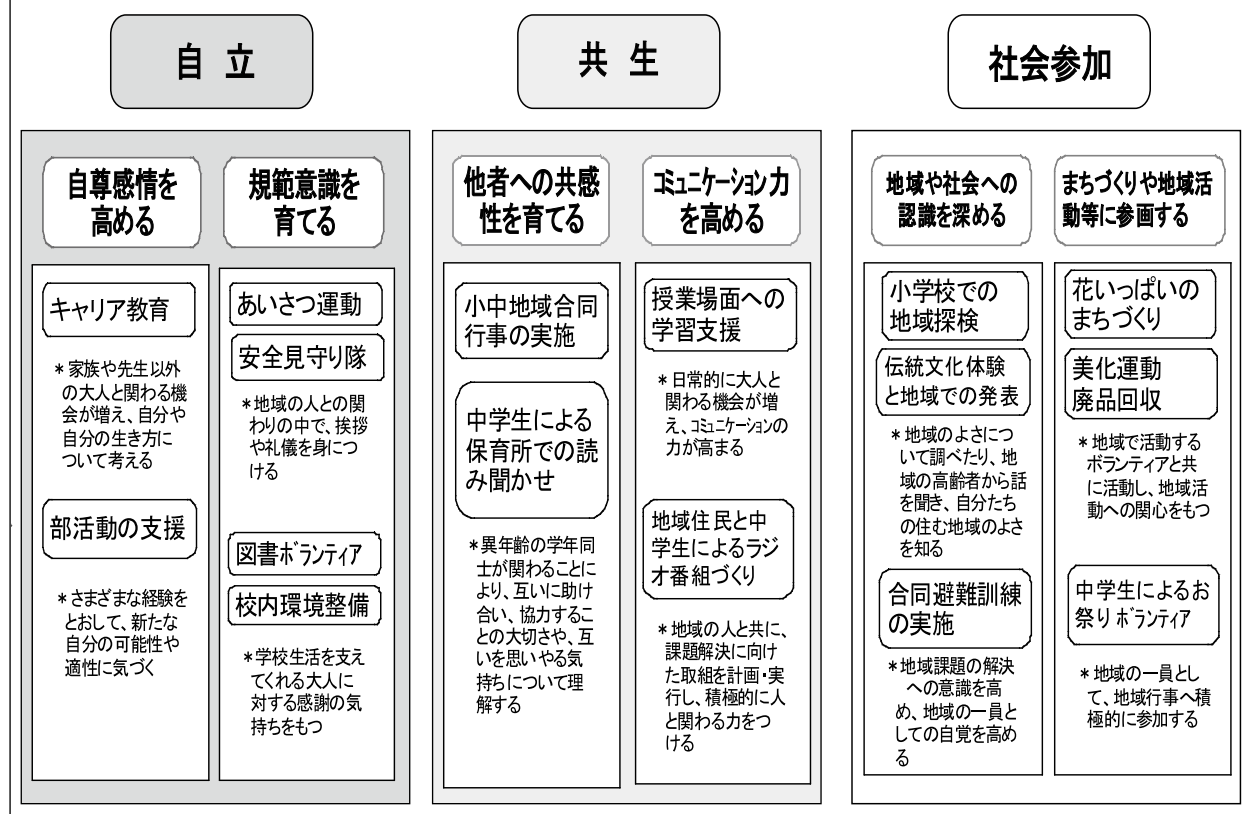
「市民性」の育成を図っていくには、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間など、「市民性」に関連するいくつかの学習を組み合わせた「学習単位」を構成して、計画的に取り組んでいく必要があります。

その際に留意しなければならないことは、これらの学習活動が、実社会とのつながりを意識したものであることです。そのために、学校は日常から地域資源（ヒト・モノ・コト）に目を向け、地域とのつながりづくりを大切にしていける必要があります。

共育コミュニティづくりが進んでいる学校では、共育コミュニティの仕組みの中で幅広く取り組まれている活動や体験を通じて、積極的に社会に参画する意欲や態度が養われていきます。共育コミュニティの取組と市民性を育てる教育が互いに結びつくことで、子どもたちが地域社会の一員という自覚を持って、よりよい地域づくりを担っていく人材として育っていくことが期待できます。



### 子どもたちの市民性が育つ共育コミュニティの取組例



This image shows a blank memo template. At the top center, the word "MEMO" is written in a large, bold, black sans-serif font. The entire page is framed by a decorative border consisting of small, repeating floral or leaf-like motifs. Inside the frame, there are approximately 20 horizontal ruling lines, evenly spaced, providing a guide for writing. The background is white, and the overall design is clean and professional.



[illegible]



「開かれた学校づくり 教職員ガイドブック」

きのくに共育コミュニティ  
地域とつながる 元気な学校

平成 21 年 10 月発行

お問い合わせ先

和歌山県教育庁共育コミュニティ推進室 (生涯学習局生涯学習課内)

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通一丁目 1 番地  
TEL : 073-441-3721 FAX : 073-441-3724